

種目（図画工作）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">開隆堂出版（図画工作）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階に応じた題材が系統的に配列され、形や色を工夫して表していく中で、知識及び技能が習得できるよう配慮されている。 ・ 多様な表現が掲載され、発想や構想を膨らませながら創造的に表現する中で、見方や感じ方を深めていけるよう配慮されている。 ・ 友達や地域とかかわり、対話を通じた造形活動がどの学年にも掲載され、楽しく豊かな生活を創造していけるよう配慮されている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 低学年の手や体全体の感覚などを働かせてつくる題材から、高学年の構成の美しさ、表現方法の組み合わせを意識した題材まで、児童の発達段階に応じた内容となるよう配慮されている。 (2) 活動の内容や手順が大きな写真と短い言葉で分かりやすく示され、児童が進んで取り組みたくなるよう工夫されている。 (3) 一題材の中に、多様な表現の児童作品や資料作品の写真が児童の言葉とともに掲載され、児童が感性や想像力を働かせることでイメージをふくらませ、活動を楽しめる工夫がされている。 (4) 巻末の資料や「安全」の囲みで示された注意書きにより、児童が材料や用具の特性を知り、安全に扱うことができるよう配慮されている。 (5) 太字で大きく書かれた題材名やリード文、作り方の図や製作過程の写真、見本写真の図版番号の付与、ユニバーサルデザインフォントの使用など、見やすさや分かりやすさに配慮されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 同じ材料を用いた題材でも、学年の目標に沿って用具や表し方を変えながら題材設定されており、6年間を通じて3つの資質・能力がバランスよく育成されるような題材配列となっている。 (2) 学年ごと、中心となる題材に於いて表現と鑑賞を一体的に扱う作品が掲載され、相互に関連させた指導が取り入れられるよう工夫されている。 (3) 材料体験を通して感性や想像力を働かせ、表したいことについて考え、造形的な視点を生かしながら表現活動を行うことで、見方や感じ方を深められるよう題材の配列がされている。 (4) 「学びの資料」に材料や用具の知識、使い方の工夫、手順等が図や写真・文章で明示され、必要に応じて参照し、造形的な表現がしやすいよう配慮されている。 (5) 児童の作品とともに製作のヒントとなる写真や紹介文が掲載され、材料や用具を生かして自分の表したいことを見付けながら、どのように表していくか手助けとなる配慮がされている。 (6) 中心となるめあてに対応した「ふりかえり」が設定されており、めあてや自己評価の観点が明確になるよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの資質・能力がキャラクター化され、題材ごと主目標が設定されており、めあての明確化と学びの深まりに配慮されている。 ・ 児童が追求している写真や多様な表現の作品が大きく掲載され、活動の全体的なイメージがもちやすいよう配慮されている。

種目（図画工作）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">日本文教出版（図画工作）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な表現ができる題材、材料や用具が取り上げられ、つくりながら知識及び技能を生かすことができるよう配慮されている。 ・ 自分が感じたことや体験したことから発想し、試行錯誤している児童の姿や作品が掲載され、創造的に表現できるよう配慮されている。 ・ 造形活動を通して、感じてほしいことや他教科、社会、生活との関わりが表記され、進んで関わる態度を培う配慮されている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各学年の内容の系統に準拠した題材、材料や用具が適切に取り扱われ、目指す資質・能力が育成されるよう配慮されている。1・2年上では幼児期の経験を生かすことのできる題材が配置されている。 (2) 教科書の見開きの中に、製作過程の写真と児童のつぶやき等が示されており、造形活動のよりどころとなるように工夫されている。 (3) 各題材が児童の発達段階に応じた題材名と造形活動を想起できる多様な表現と資料で構成され、製作意欲を高められるように配慮されている。 (4) 「気をつけよう」、巻末の「材料と用具のひきだし」では、児童が材料や用具を安全で適切な扱いができるように、見やすいレイアウトでまとめられている。 (5) 児童の意識、表現のヒント、鑑賞のヒントなどが、教科書を通じて、それぞれが同じ色や同じ枠で統一されおり、児童が造形活動の見通しをもちやすくなるよう配慮されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全ての題材に図画工作科の目標に基づく「学習のめあて」が示されており、育成を目指す資質・能力の三つの柱が分かりやすい言葉で表されている。 (2) 題材ページには、「鑑賞のヒント」が示され、表現と関連した造形活動中の相互鑑賞や対話的な鑑賞のきっかけとなるように工夫がされている。 (3) 自分の感じたことや体験したことを基に主体的に表したいことや表し方について考えながら、造形的な見方や感じ方を広げ、深めることができるよう、題材の配列がなされている。 (4) 形や色に関わる知識及び技能を習得しながら、自分の表したいことに合わせて表し方を工夫できるよう、材料や用具の基礎的な取扱について写真やイラストで丁寧に説明されている。 (5) 絵や工作の題材では、ワークシートやアイディアスケッチが掲載され、児童がどのように発想や構想を広げていけばよいか考えるための手掛かりとなるよう工夫されている。 (6) 各題材のめあてに応じた「ふりかえり」の場が設けられ、自分が表した過程を振り返ることができるよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が、感じたこと、想像したこと、見たことなどの身近な事柄から発想や構想を広げて表現する題材が多く配置されている。 ・ 題材ページには、見開き1ページの中に表現と鑑賞が関連性をもって設けられ、児童が対話している姿が構成されている。